

科目ナンバー	EDU-2-011-ky		科目名	日本語教授法演習II		
教員名	渡邊 知釈		開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
概要	第二言語・外国語としての日本語教育に関する専門的知識を学び、授業の遂行に必要な技能の訓練を行う。「日本語教授法演習II」では主に、1)国内の地域在住者のための日本語教育支援、2)国内の学校教育における、日本語指導を必要とする児童生徒への支援、3)海外・国内における、基礎的コミュニケーション能力をすでに有している学習者への指導、などを念頭に、多様な学習者の現状と課題を考察する。その上で、上記すべてに求められるアプローチとして、非PPP型、トピック・タスク基盤の指導法および、母語話者による言語調整について、理論的な背景の確認と実践の基礎的演習を行う。なお、この科目は「日本語教育実習」の準備段階と位置づける。					
到達目標	■日本語教育の多様な文脈を知り、その状況に合った日本語教育・支援についての理解を深める。・コミュニケーションを促す日本語授業を実践できる。・非母語話者と接する際の言語調整ができる。・生の言語素材を教材化するための基礎的知識を得る。					
「共愛12の力」との対応						
識見		自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力
共生のための知識	○	自己を理解する力		伝え合う力		分析し、思考する力 ○
共生のための態度	○	自己を抑制する力		協働する力	○	構想し、実行する力
グローバル・マインド	○	主体性		関係を構築する力		実践的スキル ○
教授法及び課題のフィードバック方法	基本的に演習形式で行う。受講者による発表や討論のほか、支援現場の見学や参加も予定している。受講者どうして意見交換をしながら学び合い、協働によって課題を達成することを重視する。そのため、準備としての課題への十全な取り組み、意見交換での積極的な発言が求められる。					
アクティブラーニング		○	サービスマーケティング			課題解決型学修 ○
受講条件 前提科目	■「日本語教授法」の単位を取得済みであること。★★★この条件を満たさずに受講を希望する者は、自己紹介と受講希望理由を書いたものをシラバス授業時に持参し、講師と面談すること。★★★なお、「日本語教育概論」「日本語教授法演習I」の単位も取得済みであることが強く望まれる。■学外実習として地域の日本語教育機関を訪問し、実際の日本語授業を見学する可能性がある。詳細は授業開始後に通知するが、リフレッシュ休暇中または大学入学共通テスト中に行う可能性があるため、受講者は予定を空けておくこと。■課題や連絡等はMoodleで確認すること。					
アセスメントポリシー及び評価方法	■授業・グループワークへの貢献:30%■課題(小レポート、指導案・教材作成、模擬授業発表など)50% ■試験:20%					
教材	必要に応じて配布する。					
参考図書	■友松悦子・和栗雅子・宮本淳『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルクISBN-13: 978-4757418868■『タスク・ベースの英語指導―TBLTの理解と実践』大修館書店 978-4469246094					
内容・スケジュール						
1週目						
授業学修内容	1.オリエンテーション／PPPと非PPP					
授業外学修内容	模擬授業1準備				時間数	6
2週目						
授業学修内容	2.PPP最後のP:課題の検討					
授業外学修内容	模擬授業1準備				時間数	6
3週目						
授業学修内容	3.PPP最後のP:模擬授業1課題発表・フィードバック					
授業外学修内容	課題				時間数	2
4週目						
授業学修内容	4.中級レベルの指導:中級レベルの学習項目の特定					
授業外学修内容	課題				時間数	2
5週目						

授業学修内容	5.中級レベルの指導:語量の指導		
授業外学修内容	課題	時間数	2
6週目			
授業学修内容	6.中級レベルの指導:スキーマ活性化／課題発表		
授業外学修内容	文献講読課題	時間数	5
7週目			
授業学修内容	7.地域日本語教育:日本の外国人政策および日本語教育政策／課題発表		
授業外学修内容	論点整理	時間数	2
8週目			
授業学修内容	8.地域日本語教育:ゲスト講義		
授業外学修内容	フィードバックレポート	時間数	2
9週目			
授業学修内容	9.TBLTとFocus on Form		
授業外学修内容	模擬授業2準備	時間数	6
10週目			
授業学修内容	10.アウトプット系タスク模擬授業準備		
授業外学修内容	模擬授業2準備	時間数	6
11週目			
授業学修内容	11.アウトプット系タスク模擬授業2発表・フィードバック		
授業外学修内容	フィードバックポイントの改善を考える	時間数	2
12週目			
授業学修内容	12.インプット系タスク:考え方		
授業外学修内容	模擬授業3準備	時間数	4
13週目			
授業学修内容	13.インプット系タスク:授業紹介		
授業外学修内容	模擬授業3準備	時間数	5
14週目			
授業学修内容	14.インプット系タスク:模擬授業準備		
授業外学修内容	模擬授業3準備	時間数	6
15週目			
授業学修内容	15.インプット系タスク:模擬授業3発表・フィードバック		
授業外学修内容	試験準備	時間数	4
上記の授業外学修時間の合計		60	
その他に必要な自習時間		30	

Number	EDU-2-011-ky	Subject	Teaching Practice for Japanese II		
Name	渡邊 知釈(Watanabe Tomoseki)	Year and Semester	Second semester for 2020	Credits	2
You will learn expertise on Japanese language education as a second/foreign language, and will					

Course outline	<p>be trained in skills to teach actual lessons. In this course, we will consider current situation and problems of diverse learners, dealing mainly with the following topics: 1) Japanese language support for local residents in Japan, 2) support for pupils in domestic school education who need Japanese language instruction, 3) instruction to learners who already have basic communication skills in both overseas and domestic settings. In addition, as an approach required for all of the above, we will confirm the theoretical background of non-PPP type, topic or task-based language teaching method (TBLT), as well as the language adjustment by native speakers, to incorporate them into practice. This course is positioned as a preparatory stage for the third-year course "Japanese language teaching practice".</p>
-------------------	--